

311) あの季節^{ころ}の白い花

草むらに枕して 白い雲眺めれば
青空に吸われてく ぼくたちの夏景色
喜びも悲しみも 消えてゆく雲のよう
いまはもう帰らざる 初恋の物語

季節はめぐって夏は過ぎ秋がゆく
初恋人はいまもなお おさげ髪
心の奥に変わらずに生きている

泣きながら追いかけた すぎて行く秋の影
いつまでも忘れない あの季節の白い花
目を閉じて思い出す 美しき眼差^{まなざ}しよ
荒海を見つめてた あの瞳^{いつこ}いま何処

季節はめぐって夏は過ぎ秋がゆく
初恋人はいまもなお おさげ髪
心の奥に変わらずに生きている

倅せは思い出を だんだんと遠ざける
哀しみに思い出は あざやかによみがえる
秋が来て匂い立つ あの季節の白い花
哀しみを道づれに 人生はただひとり

季節はめぐって夏は過ぎ秋がゆく
初恋人はいまもなお おさげ髪
心の奥に変わらずに生きている